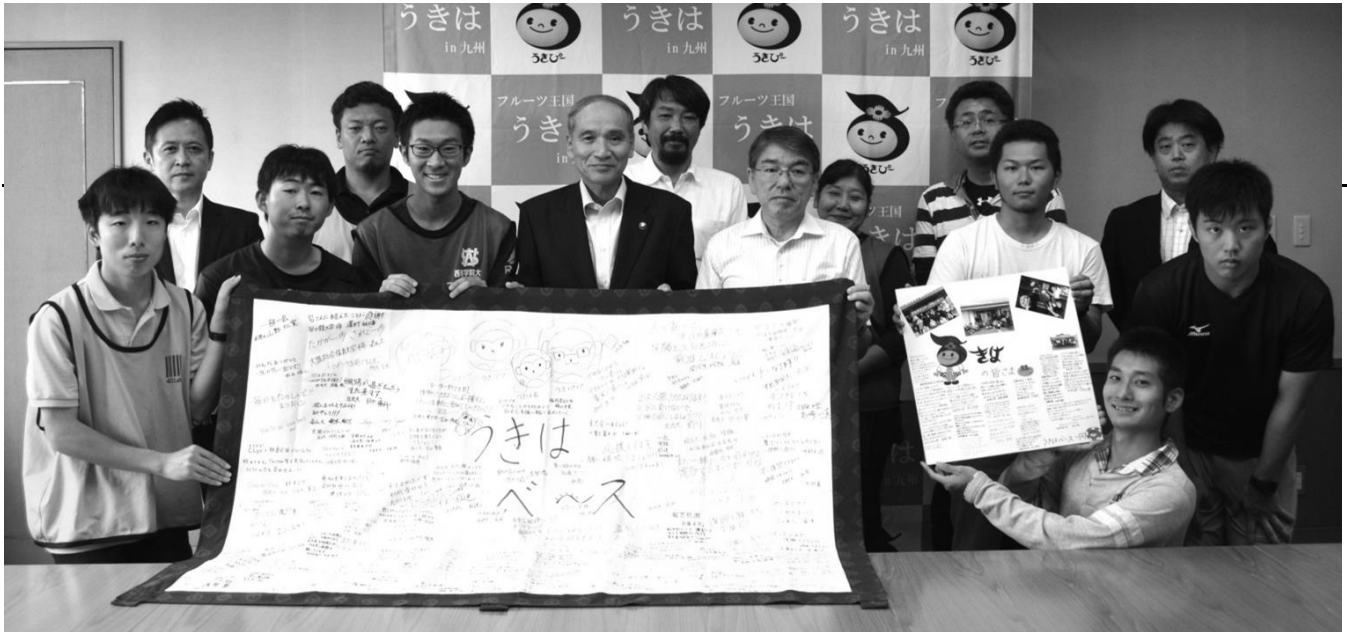


～全国から駆け付けた学生ボランティアが宿泊～“うきはベース”

九州北部豪雨災害の学生ボランティアの宿泊施設として7月22日から9月18日まで吉井町のムラおこしセンターに大学生災害ボランティア支援センター（うきはベース）が開設され、全国50以上の大学から延べ609人が利用されました。9月19日、関係者からうきは市に復興への思いを綴った寄せ書きが贈られました（写真）。

引き続き、市内を拠点に支援活動を続けられると報告があり、市長からは活動への感謝をお伝えしました。



☆☆☆シリーズ「うきはブランド推進隊の活動紹介」☆☆☆ 地域外の人材を招致して地域力を高める「地域おこし協力隊」の制度。「うきはブランド推進隊」として、現在10人がミッションに取り組んでいます。

うきは暮らしプランナー
矢倉 誠人

うきはに来て一年目の春と夏が過ぎ、秋になろうとしています。私の中では春夏に採れるうきはの食材はすべて食べたと思っているので、秋の食材も一つも逃すことなく食べるべく、胃の状態を整えている次第です。

ところで先週、私が所属していた大阪大学の松村ゼミの皆さんから、二泊三日でうきは合宿を行いたいとの依頼を受け、同じブランド推進隊の方々と案内しました。堀江銘茶園さんの協力のもと、闘茶体験をしたり、里楽さんやデリボーイさんでおいしいご飯を食べたり、小塩の佐藤好英先生のお家でバーベキューをして交流を深めたり、本当に内容の濃い三日間でした。学生や引率の先生も、うきはのひとつひとつの体験に目を輝かせて喜んでくれたのが印象的でした。

また、最終日には学生たちから筑後吉井駅の放置自転車問題などの社会課題に対する、シカケを用いた解決策の提案を受けました。

今後、この提案を実現したいとのことで、大阪大学の学生とコラボした取り組みが始まる予定です！



文化財保存活用プランナー
竹熊 若葉

金木犀の香りが漂い、日々秋の訪れを感じています。六月から始めた生涯学習センターでの小さなテーマ展示ですが、三期目（九月）は「懐かしの筑後軌道」と題して、現在の国道二一〇号線を走り久留米と日田を結んでいた蒸気機関車について取りあげています。



また、十月からは少しだけ内容を替え、今も市内で見られる筑後軌道の名残を写真で紹介しています。夜明ダムの工事により湖底に沈んでいた軌道の石垣についても触れており、こちらは現在の筑後川の水位低下に伴い目視することもできますので、約六〇年ぶりの姿をぜひ現地でも見ていただければと思います。

なお、今月二十一日（土）筑後川流域の装飾古墳の同時公開が行われます。毎月第三土曜日に市内の古墳の一部を公開していますが、今回は他市とに生きている人々によって描かれた絵は今もなおその地に生き続けています。ぜひ足を運ばれてみてはいかがでしょうか。